



全身全霊～一致団結 1～9年生の心をつなぐ～



10月10日（木）晴天のもと体育大会が開催されました。東山泉にとって体育大会は特別な意味合いを持つ行事です。施設併用型の本校にとって1年から9年までの児童生徒が揃う行事はこの体育大会のみです。児童生徒会は今や恒例となった和太鼓の演奏のオープニングを懸命に練習してきました。1年生は初めて参加する体育大会でしたので興味津々です。種目も出来るだけ異学年交流が出来るような形で工夫されており、年齢が上がるにつれて競技の難易度が上がり、参加の子どもだけでなく、見ている側もすいぶん楽しめた内容でした。



9年生にとっては最後の体育大会。9年の学年種目の全員リレーでは誰ひとり手を抜くことなく懸命に走っていました。特に西学舎の低学年の子どもたちから「がんばれ！」と甲高い声援が飛び交います。この状況はさらに9年生の奮闘につながります。これが義務教育学校の「良さ」ではないでしょうか。また、9年生の中には、体育大会当日の朝まで、自主的にソーラン節を練習していた人がいると聞いています。下級生は上級生に憧れ、上級生は「一生懸命」な姿を下級生に見せようとする。開校11年目の本校がまた一段と学校として成長できた日でもありました。

秋の校外学習

秋のこの時期は、校外学習の行事が続きます。5年生は2泊3日の花背山の家宿泊学習。4年生は疏水見学。5年生も4年生も、入学以来コロナ禍があり、校外学習の経験が少なく、みんなで校外に出るというだけで大喜びでした。

5年生が花背で一番感動したのはナイトウォークで満点の星空を見たことではないでしょうか。京都の町中では見られないきらきら光る星々を見て「きれい！」という声だけでなく「あれは夏の大三角形」と習った知識を生かしている子どもたちもいました。

4年は疏水見学です。社会科の学習の一環で疏水の歴史、そして現在も使用されている琵琶湖疏水を調べるというものです。京都の町は明治時代の東京遷都に伴い、衰退の危機にあるところを様々な知恵を出し合って自分たちの町を盛り上げてこられました。歴史から学ぶことはたくさんあります。



5年生も4年生も机上の勉強だけではなく、実際に見聞きし体験したことで、生きて働く学習につながっていったと思います。